

婦人と子ども

第十八卷第四號

園丁雜感

4

○ 春の日は飄々たり。いざ子供等と共に日和に出でん。太陽をして存分に吾等と子供等とを教育せしめんが爲に。

○ 日光が子供の健康の上に及ぼす効果の大なることはいふまでもない。しかも、日光が子供の精神の上に及ぼす効果も、亦頗る大いなるものである。あかるい心、あたゝかい心、之れは眞に、明るく暖い日光の下に養はるべきものである。春の草の如く、春の花の如く、子供等の心性を日光の下に伸び又開かしめよ。

○ 子供等に日光を浴せしむるのみならず、子供等をして日光に親ましめよ。其の心に日和を愛し、日和を喜ぶの性情を養はしめよ。健康の爲、衛生の爲ばかりでなく、心から太陽を慕ふて、部屋から庭へ、町から野へ、おのづから誘はれ出づる心の快活さを養はしめよ。

○ 仰ぎ見よ、空を。驚くことは、吾等が空を見ることの少く稀なることである。更に驚くことは、その稀に見る空の世界の高く、廣く、明るいことである。土の子の足は地球を離れることは出来なくとも、目は空を見ることが出来る。「仰ぐ自由」は何ものも妨げない自由である。

○ 仰ぎ見よ、空を、

○ 雨もよし、風もよし、しかしそれは自然の奇趣である。尊きは晴日である。感謝すべきは晴日である。しかも、一年三百六十五日、好晴果して幾日かある。今日の晴天を貴重せよ、愛惜せよ、能ふ限り全力をつくして其の幸福を享樂せよ。

○ わが日本の子供等をして、實に日光の子供たらしめんかな。(倉橋生)